

## “振り返り” ニューガラスフォーラム

(一社) ニューガラスフォーラム

小林 勝

### Looking back on the period of New Glass Forum

Masaru Kobayashi

*New Glass Forum*

#### 1. はじめに

私は、2020年6月に開催される(一社)ニューガラスフォーラムの第10回定時総会ならびに第26回理事会において、理事ならびに常勤役員(専務理事)を退任させて頂く予定である(本記事の作成時点)。振り返れば、1977年4月1日に日本板硝子株式会社に入社以来、合計43年2か月もの長い期間の定常的かつ連続的な業務に、いったん終止符を打つことになる。よく言われることであるが、この間、本当に長いようで短い期間であったと心の底から感じる今日この頃である。とはいっても、現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、通常とは大きく異なる状況になっており、真の実感を得ることが無く、少々複雑な心境でもある。

過去を振り返ることは得意ではないが、生涯で一度と思われるこの機会に、コラムの執筆を任されたので、主にニューガラスフォーラム在任期間について、少しだけ振り返ってみたいと思う。

#### 2. 最初の期間

私がニューガラスフォーラムに着任したのは、2014年6月2日、第4回定時総会の前々日であった。

正式な引継ぎは総会以降となっていたため、当然のことながら、全く状況が呑み込めず、年に1度の総会に参加し、雰囲気を感じつつも、多くの方との挨拶をさせて頂くだけのスタートであった。挨拶と言えば、総会終了までのわずか2日間で名刺交換をさせて頂いた方は約50名、7月末の2か月間になると、百数十名にもなり、数多くの名刺とお顔は全く一致しない状況であった。少しづつ理解が進んだのは、ずいぶん先、ニューガラスフォーラムの活動が本格的に始まってからのことであった。

私は、ニューガラスフォーラムの4人目の専務理事であったが、これまでとは異なり、初めての民間企業出身者であった。企業在籍時は、最初の3か月の教育実習後に配属されたのはフロートガラス製造ラインであったが、そのわずか1年後、製造現場が面白く“さあ、これから・・・”という時に、当時の会社方針に則り、研究所に異動して光通信ならびに民生用光部品などの研究開発業務に携わった。素材はガラスではあるが、ベースは光学や物理分野であるため、その基本を身に着けることにたいへん苦勞したことを覚えている。以降、企業在籍のほとんどの期間、その関係の業務に就くことになり、いわゆる、建築用や自動車用ガラス関係の業務に関わることはほぼ皆無の状態であった。

加えて、対外発表を含めた学会や、顧客とのお付き合いも光通信や光学関係の方がほとんどで、さらには、研究部門に従事後は事業部門に所属していたため、本来のガラス関係の分野にも疎遠であった。

今回、産・学・官の様々な方とお会いすることになり、特に、学・産の方とのコミュニケーションの中では、「ガラス関係企業の出身者」としての話題が必ずと言っていいほど含まれるため、自身の経験と知見から、たいへん苦勞したことも記憶に新しい。

しかしながら、私が在籍した大学の研究室は、ガラス関係では著名な先生方、先輩方が数多くおられ、それをきっかけに人脈形成をさせて頂くことができたことは、たいへんありがたいことであった。

### 3. 振り返り

さて、ニューガラスフォーラムは設立後、今年は35年目を迎えている。過去の歴史を見ると、当初の10余年は、ニューガラス、新素材あるいは新規技術開発への機運が非常に高く、ニューガラスフォーラムでも、ニューガラスの啓蒙活動を始めとして、国際交流や調査活動、シンポジウム、ニューガラスの分野別調査研究会、そして標準化事業など、普及と発展のための活動を実施してきた。1998年からは、高温融体物性測定評価技術、情報通信用光機能材料創製技術、知的基盤整備事業を皮切りに、2012年まで次々に通商産業省（現経済産業省）やNEDOの国家プロジェクトの受託事業が主体の事業形態となった。中でも、革新的ガラス熔融プロセス技術や三次元光デバイス製造技術事業は、その終了後、現在も普及促進活動を継続している。

このような経緯の中で、私が着任した時期は、約15年間継続してきた一連の国家プロジェクト受託事業が終了した2年後であり、既存のニューガラスフォーラムの活動の見直しと、国家プロジェクト終了後の活動原資が無く

なったことによる大きな収支バランス悪化からの立て直しに向けて、大小のコスト低減項目が実施されようとしている段階であった。約2週間の引継ぎを受けた後、改めて自ら、状況を把握しながら、ニューガラスフォーラムの活動の在り方について、自分なりに考え方を整理してみた。

継続の期待感をもって引継ぎを受けた国家プロジェクトの受託事業は、獲得できる活動原資とニューガラスフォーラムへの還元は確かに大きく魅力的ではあるが、当時すでに、ガラス分野や素材等に直接関係するプロジェクトはほとんど無い状況であった。従って、これについては、「チャンスがあればチャレンジする（機会は常に窺う）」程度にとどめ、まずは、ニューガラスフォーラム会員の満足を得られる活動、また、ガラス産業界に貢献できる活動という原点に戻り、以下のことを重点化して取り組むことにした。すなわち、(1)ニューガラスフォーラム活動の課題を体系的に整理し方向を明確にすること、(2)活動の重点化と活動のための企画の充実化を図ること、(3)大きな収支状況悪化からの脱却を図ること、である。

ニューガラスフォーラムの現状分析と課題抽出、今後の活動の方向性については、財務・運営委員を始め、様々な階層の方々のご意見も頂きながら進めた。

私は、日本板硝子株式会社在籍当時の1997年～1998年の約2年間、事業部門のプロジェクト業務終了の節目に、研究企画部門に所属していたことがあった。ちょうどその時、日本板硝子株式会社が、ニューガラスフォーラムの会長職を務める期間であり、ニューガラスフォーラムの担当者でもあった私は、いくつかの役割を担うため、ニューガラスフォーラムに関係していたことがある（当時、事務所は新橋にあった・・・）。

その頃も、ニューガラスフォーラムの再建が大きなテーマとなっており、その構想を構築すべく、各社企業の委員の方と“ビジョンワーキ

ング”に（主査として）取り組んでいた。今回、ニューガラスフォーラムの課題まとめと今後について検討している際、前任者からの引継ぎファイルの中から、当時の報告書が見つかったが、それは、主査を担っていた私が書いたものであった。当時とは、取り巻く環境は大きく変化したとはいえ、多くの点で、検討課題や提起内容に類似点が多かったのに驚いた。また、課題の提起については、その当時と大きく変わっていない点もあり少なからずショックを受けたが、その内容を参考にしたことは言うまでもない。

結果として、ニューガラスフォーラムの活動の重点化と企画内容の充実化、“学”の方との連携強化、関連団体との連携強化、などに力点をおく活動を目指すことにした。ニューガラスフォーラム内の活動については、各活動の委員や幹事の方のご意見を聴きつつ、活動に参加いただく方の満足度や関心が高まる企画内容はもちろん、参加しやすい形態を意識して、企画立案に努めた。活動項目については例年大きな差はないが、小規模でも、また可能なら毎年でも、趣向を凝らした企画が遂行できるよう努めた。加えて、比較的縦割りの活動をしてきたニューガラスフォーラムの活動に相互の連動性を加味し、研究会の合同企画や研究会と機関誌特集記事との連動などの試みも行いつつある。まだまだ十分ではないが、一定の結果を出すことができていると考える。

収支バランス改善については、詳細は省略するが、主たる活動については安易な規模縮小化に走らず、一方で、活動全体のウエイト付けを行って、比較的大胆な方策を含めて実施し、現在では、概ねバランス感がある状態になっている。ニューガラスフォーラムは営利団体ではないため、収支の概ね均衡状態を維持することは大前提であるが、何よりも、会員の満足を得られる活動を推進していくことが重要であると認識している。

定性的な自己評価ではあるが、この6年間、

“改革”と“変化”を念頭に務めさせていただくことができたと認識している。

#### 4. おわりに

今回の新型コロナウイルスの問題を契機として、世の中では、これからの新しい取り組み（いわゆる“With コロナ”）について、様々な議論がなされようとしている。ニューガラスフォーラムは、ガラス産業連合会の中では、唯一、ガラスに関わる技術の横断的な機能を有する団体である。一方、それが故に、“不要”ではないが、現在のような状況下では、“不急”かどうか、これから問われることになるかと自問している。

ガラス産業界にとっては、将来のさらなる拡大発展を遂げるためには、絶え間のない新技術、新製品、新プロセスなどの新たな創出と探求は重要かつ必須であり、そのためには、“官”のご指導のもと、国内のガラス基礎研究を担う“学”の方との緊密な連携、さらには、会員企業を始めとする“産”の方との協力やサポート、期待に応える活動などが重要かつ重要であると認識している。ニューガラスフォーラムは、これらのことを改めて肝に銘じ、大きな存在感を発揮できるよう、そして、“不急”ではないと認識される団体であるべきと思う。

在任期間中には、課題のすべてを解決できたわけではないが、現在も、構想を現実化していくための道筋にあるものも多い。それらについては、(申し訳ないことであるが)後任者ならびに関係各位に引き継ぎ、よりよいニューガラスフォーラムの活動が継続できるよう大いに期待したい。

\*\*\*\*\*

改めまして、今回、私は、(一社)ニューガラスフォーラムの常勤役員(専務理事)を退任させて頂くことになりました。

本来なら、定時総会にて、ご挨拶をさせて頂く予定でしたが、新型コロナウイルス感染抑制

のことを考慮し、今年は書面審議開催とさせていただきます関係上、それも叶わないことになりました。今回、この機関誌「コラム欄」に投稿させて頂きました機会に、簡単ですが、ご挨拶と振り返りをさせて頂きました。

企業在籍時代には事業部門に所属していたこともあり、また自らの認識不足もあり、正直に言って、ニューガラスフォーラムという団体の活動にあまり興味を有することができず、深い関心も持つことができませんでした。しかしながら、ニューガラスフォーラムに在籍してからほどなく、学界の先生方ならびに関係の企業の方などの、非常にご熱心な、そして、前向きな活動への参画やサポートなどを頂いている事実直面し、驚きとともに、深い感謝の気持ちでいっぱいになりました。

今後とも引き続きまして、(一社)ニューガラスフォーラムに対し、変わらぬご支援、ご指導、ご協力を心からお願い申し上げます。ありがとうございました。感謝です。

\*\*\*\*\*

(付記)

ニューガラスフォーラムは、新宿区の新大久保にあります。新大久保は韓国街で有名ですが、多国籍の人々や店舗が共存する不思議な街で、魅力的な場所も多いところです。会員メンバーの多くの方はご存じではありますが、初めての方も、是非一度、足を運んでいただき、ニューガラスフォーラムにも気軽にお越しただければ幸いですし、そういう開放感ある団体になれば、と思っています。